

(西暦) 2024 年度申請

ジュニア地域公共政策士
資格教育プログラム

「プログラム説明書」

プログラム名 : 京都すばる高等学校地域協働実践プログラム

～地域社会を本気で考えるみんなごと化プロジェクト～

実施機関名 : 京都府立京都すばる高校

社会的認証期間 : 2024 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日

プログラム概要（運営・実施体制）

実施機関名	京都府立京都すばる高等学校	
実施部門		
プログラム実施責任者	学校長（貴島良介）	
プログラム担当者	商業科主任（新開 正規） 学科長（小川 建治・北川 博士）	
事務担当者	〃	
事務担当者連絡先	電話番号：075-621-4788	Email：
備考		

教育プログラムの概要（プログラムの特徴を踏まえて、PRしたい点を含めて概要を説明してください。ここに記載いただいた内容はHPでのプログラム紹介で活用させていただくことがあります。）

<総合的な探究の時間>

3年次に起業創造科では6ゼミ企画科では9ゼミに分かれ、課題研究（総合的な探究の時間の代替）を実施する。この課題研究でめざすものは以下の通りである。

「じぶんごと化・みんなごと化」と「外部連携（協働的な学び）による実践」

1. 主体的・積極的に考えて行動し、互いに貢献し合いながら、自分たちで授業を創る。
2. 6つの専門分野を生かして、起業創造科全体で探究活動※を行う。

※探究活動とは・・・「①課題・仮説設定→②情報収集→③整理・分析・検証→④まとめ・表現」

3. 3年間の専門学科での学びの集大成として、学科の学びと社会（地域）をつなげる実践的授業とする。

<実施機関の特色ある科目>

1年次より3年間系統的な地域協働プログラムを実施する。

1年次には、商業科目「ビジネス基礎」において、ビジネス視点、地域視点から地域とつながる授業を展開する。起業創造科では地域の税理士事務所および税務署、企画科では、向島地域およびあしなが育成会と連携する。

2年次には、学校設定科目「起業マネジメント」および「グローバルビジネス」の授業で地域資源を活用した連携や発展途上国の課題解決に向けたビジネスプランを考える授業を実施する。

3年次には、商業科目「課題研究」において、15ゼミに分かれ、それぞれのテーマに沿った探究的な学習を3年間の学びの集大成として実施する。

3年間通して、京都文教大学の高大連携授業を実施し、本プログラムの趣旨に合った授業を実施する。

1 学習アウトカム・目的・教育目標

1-1 学習アウトカム

(レベル4に対応する学習アウトカムを設定してください。)

総合的な到達目標	地域社会の価値を理解して、その一員として主体的な視点を獲得する。(4-0-3)
知識	地域社会の現状を把握するための特定の知識を理解する。(4-1-0より) 地域課題のあり方に関する状況に関する知識を理解する。(4-1-3より)
技能	知識を地域社会の現状に適用するための認識やスキルを身につける。(4-2-0より) 知識を地域活動に活用する技能を身につける。(グループワーク方法、ファシリテーション方法など)(4-2-2より)
職務遂行能力	地域活動などの参加者として特定の知識・技能を使って役割を果たすことができる。(4-3-0より) 地域活動の中で、知識、技能を主体的に実践することができる。(4-3-1より) ・フィールド活動の中で実践ができる。 ・地域活動へ参加して実践ができる。 ・地域の担い手として協働できる。

1-2 目的・教育目標

(学習アウトカムを踏まえた具体的なプログラムの教育目標と目的をそれぞれ明記してください。)

ビジネスを学ぶ専門学科の生徒が、三年間系統的な地域協働プログラムの中で地域社会と繋がる授業を実施する。そのプログラムにおいて、地域課題を他人事ではなく「じぶんごと」として捉え、その解決策を考える実践を実施する。さらに、ジュニア・地域公共政策士認定に向けた発展的授業として、「みんなごと化プロジェクト」を行う。起業創造科では、会計やマネジメントに関わる知識を持ち、それらを適切に活用できる、企画科では、マーケティングやビジネス情報に関する知識と技術を適切に活用し、「伝わる企画書」を作成できる、また、地域および世界の諸課題に関心を持ち、「じぶんごと化」「みんなごと化」できる人材育成を目指す。(学科グランドデザインより) その結果、一人ひとりの小さな「じぶんごと」は、集まることで大きな「みんなごと」となり、社会を変える力となる。この「みんなごと化プロジェクト」により、常に地域社会に対して当事者意識を持った地域人材を育成したい。

2 プログラム内容

2-1 プログラム構成 科目・教員等の配置（※添付資料：シラバス等）

	科目名	科目担当者	履修単位	ポイント	開講方法 (対面・オンライン・ ハイブリッド等)	備考
1	公共	地歴公民科教員	2	2	対面	1年次
2	ビジネス基礎	商業科教員	2	2	〃	1年次
3	起業マネジメント	〃	3	3	〃	2年次 起業創造科
4	グローバルビジネス	〃	2	2	〃	2年次 企画科
5	課題研究	〃	3	3	〃	3年次 起業創造科
6	課題研究	〃	4	4	〃	3年次 企画科
7						
8						
9						
10						

備考：(補足説明等あれば記入してください。)

2-2 教育方法の説明

(プログラムの教育目標や学習アウトカムを達成するための教育方法について、プログラムの特色を踏まえて、授業形態の工夫等を説明してください。また、プログラム実施における連携機関等があれば合わせて説明してください。)

地域とつながる授業を1年次より連携授業を実施し、地域理解を深めると共に、地域課題に対して当事者意識を持つことが出来るための人間的土壌の育成を目指す。年次進行とともに、外部連携機関の協力のもと、課題解決型授業を実施する。3年次では、15のゼミ(フィールド)に分かれ、それぞれが課題発見、仮説設定、そして、地域社会の応援者の方と一緒に課題解決に向けた「みんなごと化」プロジェクトを実施する。講義形式の授業において、知識や技術の習得を目的とした授業をするのはもちろんのこと、外部連携による「ゲストスピーカー」による講演や課題解決型の授業を学年進行と共に展開する。また、地域理解や現状の把握のため、フィールドワークも3年ゼミ(課題研究)において適宜実施する。例えば、起業創造科高大連携ゼミでは、京都文教大学の課外活動の学生と協力し、多世代交流をキーワードに古着ファッションショーや古着販売を行う。連携機関は、伏見税務署、近畿税理士会伏見支部、まちとしごと総合研究所(地域コーディネーター三木氏)、京都文教大学等である。

2-3 学習者

(対象となる学習者を明確に定め、その学習者に対応した開講形態を説明してください。)

専門学科でビジネスの基礎、基本を学びビジネス視点を持った生徒を対象として授業を実施する。

3 科目の成績評価

3-1 成績評価の基準と方法

(プログラムの教育目標、学習アウトカムに対応した成績評価と方法についてどのように学習者に周知しているか説明してください。)

各学年の学習内容については、シラバスや年度始めの授業において周知する。学習の評価は、「知識・技能(技術)」・「思考・判断・表現」・「主体的に学習に取り組む態度(学びに向かう力・人間性)」の観点別評価を行う。具体的には、定期考査、課題、小テスト、提出物(ノート・プリント等)、プレゼンテーション、グループワーク、平常の授業態度等を総合的に判断し、3段階(A,B,C)で評価する

4 実施体制

4-1 管理・運営体制

(プログラムを継続的かつ円滑に実施していくための運営体制及び教育内容の点検・改善を実施する体制について説明してください。)

商業科主任を中心とした、本プログラム実施チームを設置する。そこには、商業科主任、学科長および副学科長の5名が所属する。そして、週1回実施される商業科会議で商業科教員全体に共有し、3年間を通してプログラムが進行できているか点検、改善を求める。

4-2 プログラムの点検・改善

(プログラムの実施・運営の改善に役立てるために生徒の声を聴く仕組みを説明してください。)

本プログラムに該当する授業において、「授業評価アンケート」を年2回(1学期末、3学期当初)実施し、生徒の状況を把握すると共に、生徒からの意見を聞くように努める。
3年課題研究で毎時間実施する「ゼミレポ(ゼミの内容を報告書にまとめる)」の記入内容から、活動内容や感想から生徒の状況を把握する。